

II－決算

95 予算の見直しに際し、それが現実的なものとならないリスクに対するコントロールについて、下記の()内に当てはまる語句は何か。最も適切な組合せを選べ。

「担当者は、マネジメントによる見直し予算案や関係部門の見直し予算案の(A)を十分に検証し、(B)の確認を行う。」

- a) A:策定根拠 B:実現性
- b) A:策定根拠 B:効率性
- c) A:期間配分 B:実現性
- d) A:期間配分 B:効率性

121 連結決算にあたり、連結グループ各社が個別財務データを報告する際の手続きとして適切でないものはどれか。

- a) 公認会計士監査が義務付けられている会社は、報告前に公認会計士のレビューを受ける。
- b) 報告資料は、作成者及び第三者のチェックを経た後、会社の代表者またはそれに準ずる役職者から報告する。
- c) 連結決算手続に入る前に連結パッケージ内容を十分にチェックしておく必要がある。
- d) 報告後に誤りが判明した場合、親会社の決算発表後であれば再報告はしない。

8 月次業績業務 **8.3** 予算見直 **正解: a**

予算計画の見直しは、当初の予算策定の時には予見できなかった事象(市場環境の変化、事業体制の変更等)を反映したものとする必要があるが、この事象を正しく把握し、それが反映された見直し案が作成されないと実現性の低い計画となってしまうリスクがある。したがって、予算見直し案の策定時においては、その策定根拠の検証を十分に行い、実現性の高い予算計画とすることが重要である。したがって、正解は(a)。

10 連結決算業務 **10.3** 個社データ収集 **正解: d**

連結決算は連結グループ各社の個別決算を基に、必要な連結決算手続を施して作成するため、連結グループ各社の個別決算数値のほか連結決算手続を実施するために必要なデータを入手する。必要なデータ例として、投資有価証券銘柄別内訳、連結グループ会社間の取引データ、内部利益明細他があり、こうした報告資料を総称して「連結パッケージ」という。

連結パッケージ報告以後に誤りが判明した場合は、親会社の決算発表後であっても速やかに親会社に報告すべきであり、正解は(d)。